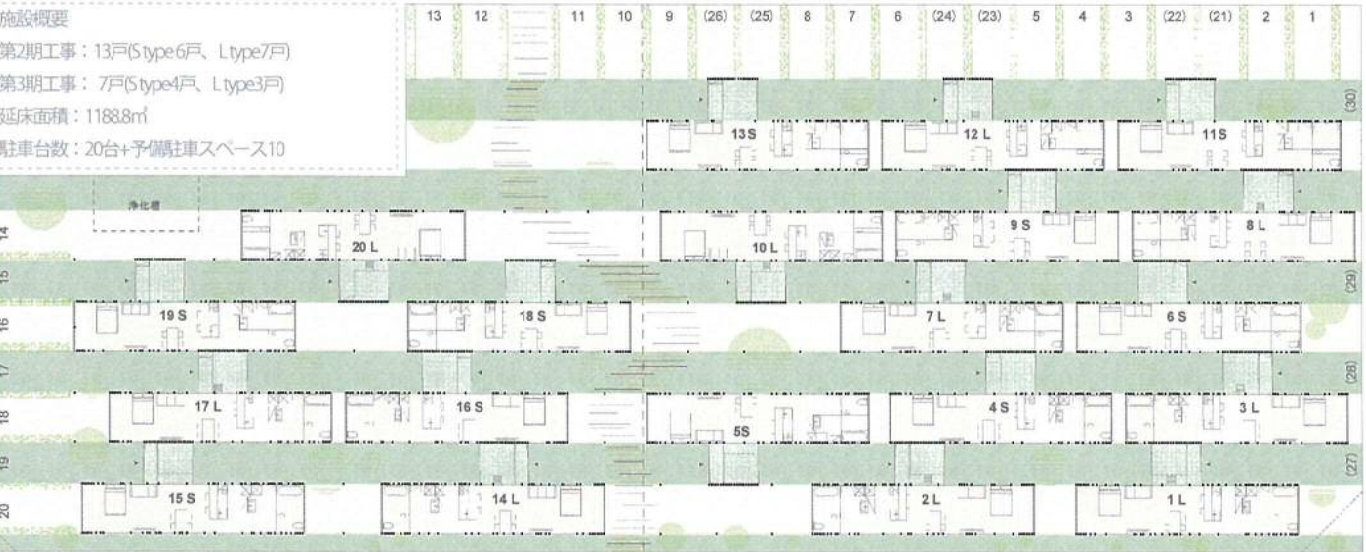
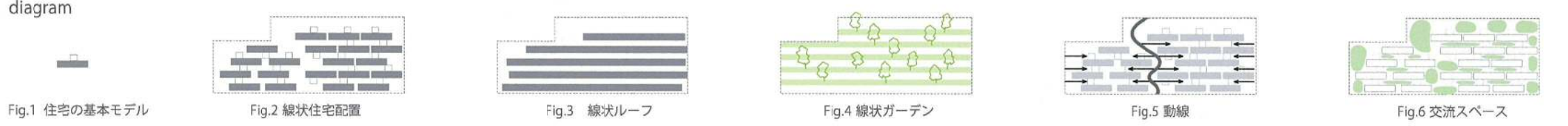


自然と木が織り成す住宅団地 / 美浜町宮河和団地プロポーサル

豊かな自然に囲まれた美浜らしい暮らしとして「庭」と「住居」が交互に織り成す「線状の公営団地」を提案する。美浜町の住まい方というのは「自然」と「暮らし」が一体となった状態が展開していることである。庭と建物が交互に織り成すことにより建物配置は各住戸が密接に外部環境を享受しながらプライバシーを確保している。また構造柱を風景のつながりと連動して計画することで暮らしと庭が一体となった暮らしを提案している。外観は植栽と無垢板を組み合わせることで美浜の自然と調和した緑に包まれた街並みを作り出している。

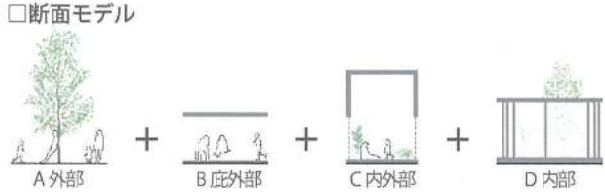
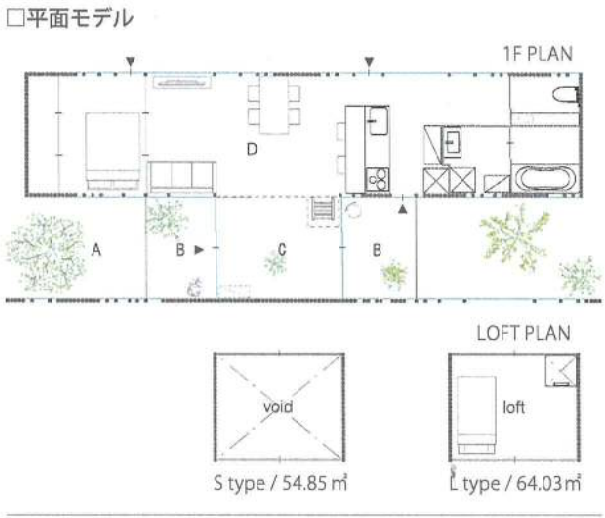


□平面・配置計画
複製による量産型公共住宅は今後の若い入居者にとって魅力的には思えない。しかし施工やコストに影響を与える「複雑なプラン」や「難易度の高い施工方法」が次世代への回答になるとも思えない。そこで本計画ではプランの型をひとつに絞り、吹抜けの有無にて2タイプの住戸面積に対応している。この基本モデルを庭と交互に配置し、いくつかのたまり場を設けながら敷地全体に展開している。



□木に包まれた風景
線状ガーデンに面した壁面を柱とガラスによって構成することで「外の自然」と「木柱」が一体となった風景が多重的に展開する。また外観は植栽と無垢板による自然素材の組み合わせによって周囲の自然と調和した豊かな街並みを作り出している。

□普及可能な木質仕上げ
木造在来工法に梁し仕上げを組み合わせることで資材及び施工の省力化に繋がるほか開放感のある天井高さが得られる。メンテナンスとしてもクロス張替え等が不要になることなど、資材・施工者・住人・メンテナンスと多様なメリットがうまれる。



□団地全体との関係
建物をずらしながら道路境界からセットバックさせることで周囲への圧迫感を低減し、線状ガーデン及び道路境界沿いに植栽を施すことで緑に包まれた街並みを作る計画となっている。

□「線状柱」と「線を束ねた構造壁」
構造は鉛直加重を受ける柱とそれらを工場にて圧着加工した柱面材パネルによって構成されている。柱面材パネルは地域特性である塩害において耐久性の面でスチールプレース及び構造用合板より優れている。梁は材料コスト及び施工時の重量負担が少ない30×180mmの国産無垢材を303mm間隔にて配置している。



□ユーティリティボックス
1階は塩害対策としての室内干しや、半アウトドアリビング、収納庫など様々なライフスタイルを受け入れる場所となる。2階は子供部屋であり海岸を眺める物見棟であり排熱を促す換気棟として機能する。

□採光計画
夏季の温度上昇による空調負荷を抑えるために、熱負荷の大きな南面に大開口を設けるのではなく各住戸の東西面をガラス張りすることで室内全域にわたって均質で明るい内部空間が得られるようになっている。(南面開口の場合室内の明度差が大きく眩しさ・暗さを感じやすい)

□コミュニティ
各戸に設けられた線状ガーデンや外部交流スペース (Fig.6) において活発なコミュニティが生れる場を提案している。

□メンテナンス
壁天井の室内仕上げを木の現しとすることでクロス張替え等が不要となる。また外部からのメンテナンスは線状ガーデンが設けられているため他の住戸に干渉することなく住戸ごとにメンテナンスが可能。施工とメンテナンスを考慮し水周りの配置を4つの東西軸に集約している。

□自然災害への備え
西側丘陵地への避難動線としては南北の道路と遊歩道の3つに分散することで非難時の動線集中を回避している。(Fig.5)

